

更生保護が紡ぐ希望



～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

問い合わせ 地域福祉課 ☎38-2153

7月は「社会を明るくする運動」の強調月間および再犯防止啓発月間です。犯罪防止や罪を犯したり非行をした人たちの更生を目指し、安全で安心な地域社会を築くための全国的な取り組みです。今回の特集では、更生を支える関係団体の活動と地域での更生保護の重要性について、お二人にインタビューをさせていただきました。



芦屋市保護司会
会長
松枝 泰生さん



芦屋地区更生
保護女性会 会長
重村 信子さん

—それぞれの団体の紹介をお願いします

松枝: 保護司は罪や非行を犯した人々の更生を支援し、再犯防止に取り組んでいます。具体的には、刑務所や少年院から仮出所・仮退院した人たちを含む保護観察処分を受けた人と会い、話を聞きながら助言や指導を行って、必要な場合は関係機関との連携を図り立ち直りを支えます。また、本人が出所後に帰る環境を確認し、立ち直りやすい状況を整えるための環境調整も行っています。このような活動を通じて、保護司は再犯防止に貢献しており、保護司会としても地域での再犯防止や防犯に関する啓発活動を行います。代表的な啓発活動として「社会を明るくする運動」(※右ページ下参照)があります。

重村: 更生保護女性会は、罪や非行を犯した人々の立ち直りを支援する女性ボランティア団体です。保護観察になった人々が立ち直るために、県内の更生保護施設で「おふくろの味」を味わってもらえるよう、ディナーサービスやクリスマス会など、少しでも子どもたちに寄り添える支援活動を行っています。

し、地域のためになればと思い参加しました。現在は高齢の方が多いですが、ぜひ若い方にも参加してほしいですね。

—活動する上での苦勞などは？

松枝: 保護司は、法律で規定されていて給料はありませんが、法務省の保護観察所より交通費などの支給はあり、いわゆる非常勤の国家公務員という立場で支援体制もしっかりしています。その点で更生保護女性会は完全なボランティアなので大変だと思います。

重村: 更生保護女性会はボランティア活動のため資金調達が必要で、バザーなどを通じて資金を集めています。活動は目に見えないサポートが多く、直接的な成果を感じにくいですが、手紙などで感謝の言葉を受け取ることが励みになっています。

松枝: 見返りがあるわけではないので、なんとか立ち直ってもらいたいという思いだけです。しかし犯罪が多様化していますので、対応が難しくなっています。

重村: ネット社会になって、すぐに犯罪に結びついているように思います。子どもたちはネットを通じて、ちょっとしたアルバイト感覚で犯罪に手を染めるケースが多くなっています。そこをどう食い止めたらいいいのかなど。犯罪を起こした子どもたちは、後でものすごく後悔しているんです。私たちでも何とかできないかなと思うのですが。

—更生保護のこういったところが大事だと思いますか？

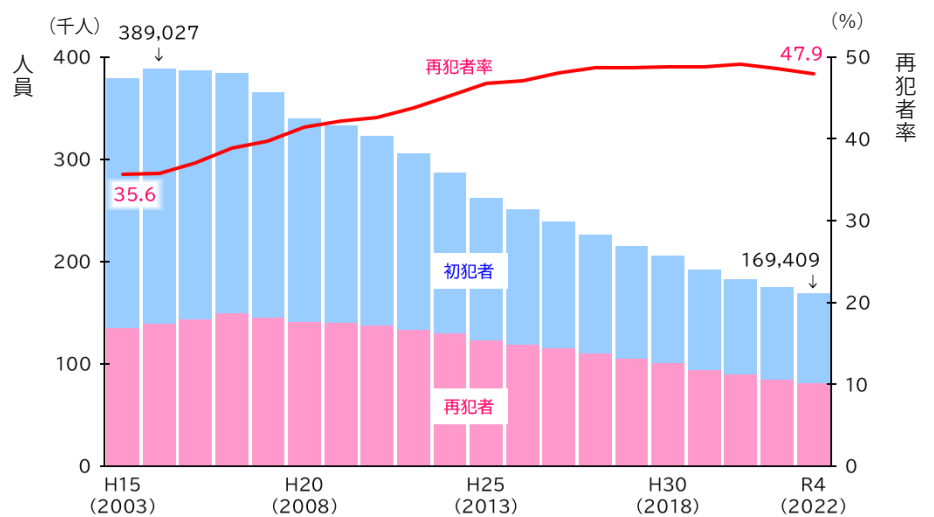
松枝: 刑法犯の検挙人員は、全体では下がっているのに、再犯者率が横ばいもしくは増えてきています。この傾向からも同じことを繰り返さないようにするための取り組みが更生保護の大きな柱です。悪いことをした人に対しては、「悪いことをしたんだから少々苦勞しても仕方がない」と多くの人が考えるかもしれませんが、しかし育ってきた家庭環境や生活の中で、生きづらさを抱えて、非行や犯罪に走ってしまったケースは多いのです。だからこそ、誰かがそこで手を差し伸べることがで

—活動をしようと思ったきっかけは？

松枝: 保護司になったきっかけとしては、近所の保護司からのお誘いや保護司をしていた家族の影響が多くありました。他には、地域に根付いた職業の方やボランティア活動をしている方も多いです。今は、保護司の活動を広く知ってもらうために活動をアピールし、地域での理解と協力を求めています。

重村: 夫や夫の父が保護司だったので更生保護女性会の活動内容は知っていました

刑法犯 検挙人員中の再犯者人員・再犯者率の推移



「令和5年版犯罪白書」より抜粋、一部加工